

# 本会が実施する「車いす」関連の事業をご紹介します

本会では、車いす関連の事業として「車いす貸出事業」及び「出前講座・ふくし体験プログラム（車いす体験）」を行っています。

「車いす貸出事業」については、市民のかたの利便性を図るため、本会窓口だけでなく、市内各所の福祉施設・福祉事業所でも借りられる「車いすステーション」を実施しています。

「出前講座・ふくし体験プログラム（車いす体験）」については、車いすの構造や特徴、操作方法について説明をした後、実際に車椅子に乗り、段差や傾斜等の体験をしてもらいます。また、車いすユーザーを呼び交流の機会を設けることもあり、福祉教育として多くの学校からご依頼をいただいています。

## ●車いす貸出事業（一時的に車いすを必要とされるかたに無料でお貸しします）

【このようなとき、ご利用ください】

- ◆退院後の療養に ◆通院の往復に ◆お散歩、買物に
- ◆家族で旅行に ◆田舎から高齢の親が来るので
- ◆骨折など、怪我が治るまで
- ◆車いすの購入準備をしている間
- ◆介護保険のレンタルサービスを利用できるまで



※数に限りがあります。事前に空き状況をお問い合わせください。

〔利用できるかた〕市内にお住まいで、在宅生活をされているかた〔貸出期間〕原則3ヵ月以内ですが、なるべく多くのかたにご利用いただくため、必要な期間だけの貸出しにご協力を願います。

## 車いすステーション～ご近所でも車いすが借りられます～

ステーション協力先	所在地	連絡先
緑が丘地域包括支援センター	緑が丘1460 1103号棟1階	590-5151
村山団地高齢者みまもり相談室	緑が丘1460 45号棟	590-5800
大南地区会館	大南5-1-69	562-3241
中藤地区会館	中藤3-16	565-0113
北部地域包括支援センター	中央2-13-1	516-0062
のぞみ福祉園	本町5-22-1	560-6011
三ツ木地区会館	三ツ木2-39-2	560-3302
残堀・伊奈平地区会館	残堀1-60-3	560-0771
デイサービスセンターほのか武蔵村山	残堀2-32-5	520-1190
市立第十小学校	残堀5-100-1	560-1710

※数に限りがございますので、事前に空き状況をお問い合わせください。

※「車いすステーション」においての貸出期間は、2週間以内です。

## ●出前講座・ふくし体験プログラム（福祉の学習支援を行っています）

本会では、住民の皆様が福祉についての理解と関心を深め、今後のさまざまな地域福祉活動に役立てていただくため「出前講座・ふくし体験プログラム」を用意しています。

地域の集まりや小さなグループ、職場の勉強会等に本会職員が出向き、福祉・健康・災害に関すること等、様々な内容についてお話しさせていただきます。また、市内ボランティア団体等に協力をいただき、学校の授業として福祉学習や体験講座も行っています。

右の表にない内容でも、お住まいの地域で気になっていることや関心があること等、ご要望に応じて対応できることもありますので、お気軽にご相談ください。



No.	出前講座	No.	ふくし体験プログラム
11	介護予防について	1	ユニバーサルデザイン
1	「社協」ってどんなところ？	2	高齢者・障害者疑似体験
2	成年後見制度について	3	点字体験
3	地域福祉権利擁護事業について	4	手話体験
4	生活資金に困ったときは	5	車いす体験・車いすユーザーとの交流
5	災害ボラセン入門講座	6	災害時クロスロードゲーム
6	ボランティア・地域活動の紹介		
7	地域包括支援センターとは		
8	助け合いのまちづくりについて		
9	介護保険制度とは		
10	認知症サポーター養成講座		

✧「出前講座・ふくし体験プログラム」では、このようなことも行いました ✧

## 車いす体験

本会が運営する身体障害者福祉センターの職員が市内の小学校にお伺いし、「車いす体験」を実施してきました。

生徒たちには、車いすに乗る人と車いすを押す人の両方を体験してもらい、段差やデコボコ道を進んだり、高いところにある物を取ったりするなどしてもらいました。

生徒たちの感想としては、「車いすは少しの段差を乗り越えることも大変なんだ」、「車いすの操作はこんなに難しいんだ」などが聞かれ、子供たちに車いすに乗る人・車いすを押す人の気持ちを理解していただくよい機会となりました。

- 訪問日 ・市立第八小学校【10月20日（木）】
- ・市立第九小学校【11月4日（金）】



## 小学校にて「フードバンク事業」の説明

11月9日（水）、市立第十小学校にお伺いし、生徒に「フードバンク事業」についてお話ししてきました。

今回、学校から依頼がきたきっかけは、生徒たちが総合学習の時間においてフードロスについて学ぶ中で「フードドライブ」のを知り、「余っている食料の集め方や集めた後の取り組みを知りたい！」という思いがでてきたことからでした。生徒からは、「企業等、多くの人の協力で成り立っている活動だと感じた」「自分も協力したい」「色々な福祉団体にも食料提供していることを初めて知った」などの感想が聞かれました。

第十小学校では、今回学んだことを活かし、今後、自分たちでもできる取り組みとして「フードドライブ」の活動を行い、令和4年10月にオープンした子ども食堂「中原ぶどうハウス」に集まった食料の提供を考えています。



地域福祉コーディネーターの活動、車いす貸出事業及び出前講座・ふくし体験プログラムへの問い合わせは、地域係（☎ 566-0061）まで。